



● 室外温度はマイナスになることが予想されたので、オプションアクセサリーの「カップル用ウインターフード」で計測

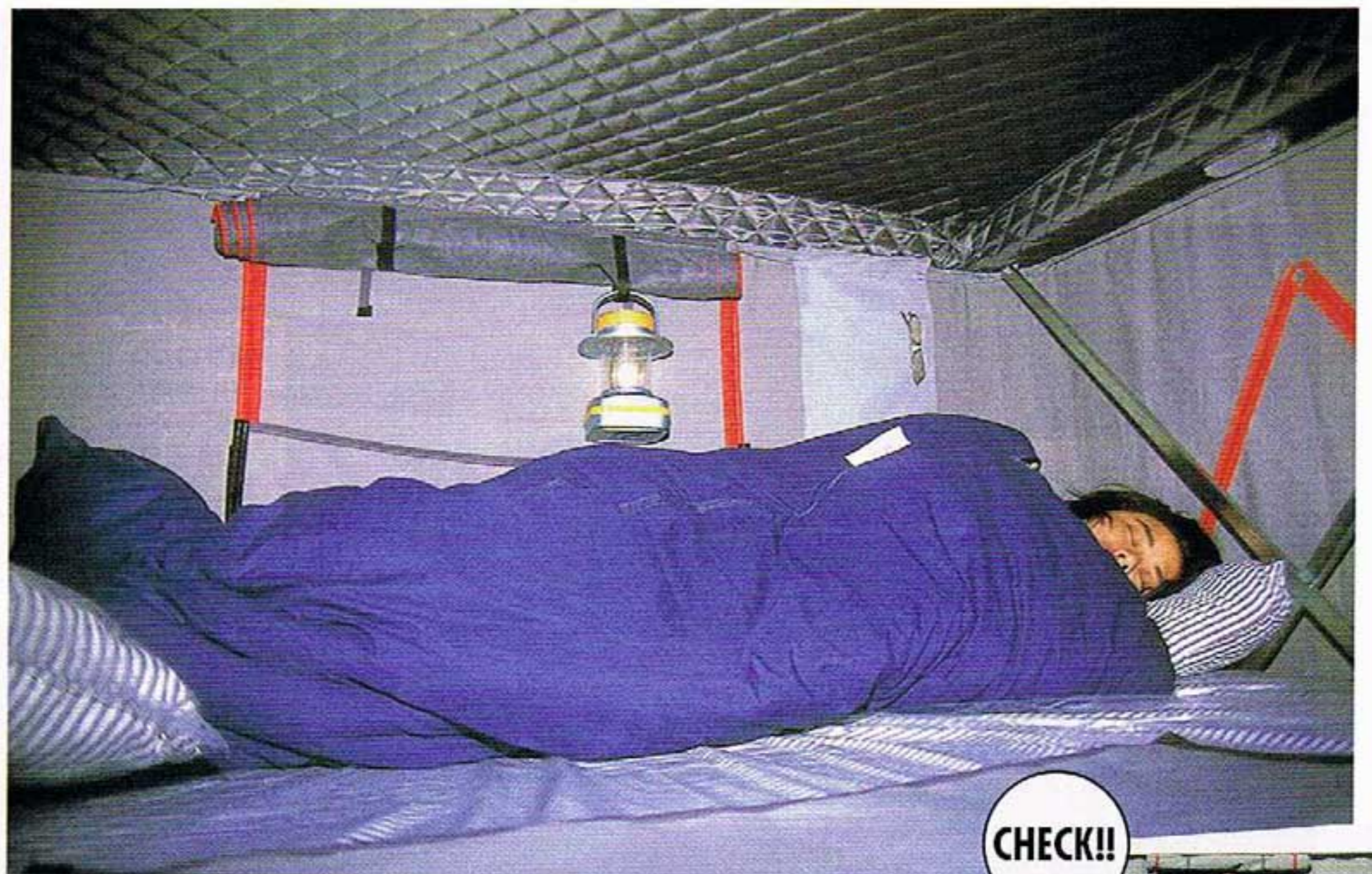


● ルーフテントの上部にペロクロテープが縫い込んであり、そこにはわすようにして、ウインターフードを装着。垂らした下部分はヒモで縛り、風が入らないように全体を囲む

	20:00	22:00	24:00	02:00	04:00	06:00
室内	5.8	7.3	6.3	4.3	1.5	1.0
室外	3.6	3.0	2.1	1.9	-0.5	-1.0

キャンプサイトは日が沈むと途端に寒くなってきた。食事が終わったら、いよいよ実験開始だ。テントを開け閉めしたらたちまち温度が変わることが予想されたので、朝まで出入り禁止…。

20時で温度に違いがあるのは、昼に暖められた室内の温度がそのままキープされていたから。22時で温度が上がっているのは、お風呂で暖かくなった体が熱源になって室内を暖めたい。朝になると温度はほぼ同程度になったが、室内は温度変化がゆるやかだった。「湯たんぽ入れておくと暖かいよ」とはルーフテント経験者の話。熱源があると快適に過ごせるはず。(単位=度C)



CHECK!!



● 室内温度は枕元で、室外温度はクルマのルーフとルーフテントの間にセンサーを置いて計測。温度差については、左の表を見てね!



● ルーフテント内にはシガーライターソケットに接続するスイッチ付きライトが装備される。室内天井には結露の防止処理済み



● 枕元には左右に小物を入れるポケットが付属。眼鏡や本などを収納するのに便利。室内の収納スペースはこの部分だけ



● マットの厚みは8cmもあり、快適に過ごせる。下からの冷気もこれだけ厚みがあればシャットアウト。テントと比べ快適度は段違い



● ファスナー付き防虫ネットにもなるウインドスペースは幅77×高さ70cm。左右にウインドがあるので、室内換気はバッチリ



● 室内高は87cmで、あぐらがかけられるくらいの高さがある。着替えたりするのはさすがに窮屈だが、2人で過ごすには十分な広さ

就寝チエック!

ルーフテントは上下の部分こそFRPを使っているが、本体はテント生地であって。そうなる、これからの季節やっぱり気になるのが断熱性能や強風時のテントの強さについて。そこでキャンプ場で一晩過ごして温度変化を調べてみた。さらに実際の寝心地や、テント内の使い勝手もチエック!

マイナス1度Cの西湖、テント内は果たして…

室内温度実測の前に、居住性能をチエック! アルミラダーを使いルーフテント内に入る。テントの両端にフレームが入っているの、左右どちらからもラダーが掛けられる。

乗り込むときは、思ったほど揺れない。さらに揺れを止めるためにジャッキアップしようかと思っただが、あとで聞いたらこれは御法度。なぜなら、いくら最大積載重量以内だといってもルーフに負担がかかっているのは事実。で、そのときにジャッキを入れてクルマの動きを止めてしまうと、ルーフテント+人の重さをルーフキャリアとボディの接点のみで支えることになってしまう。これだと負担が大きい。

ジャッキアップしなければ、タイヤやサスペンションがクッションの役割を果たしてくれるので重量をうまく逃がすことができる。くれぐれもジャッキアップはしないように。

室内の照明は、シガーライターソケットに接続した室内灯があるのだが、今回はテスト車なので未接続。ウインドウのペロクロを使って電気ランタンをつるした。小さな明かり1つあれば室内は本が読めるくらいの明るさになる。テント内は前後にパンタグラフ

オーバートtentを使って温度変化を実測